



2001年9月14日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社

## 「5世代家族の生活意識と実態」調査について 概要

ノバルティス ファーマ株式会社（社長：通筋雅弘）は、今年6月に378組の5世代家族に実施した「生活意識と実態」のアンケート調査結果をまとめましたので、お知らせします。

ここにご紹介するのは、ノバルティス5世代キャンペーン（2000年7月～12月）で確認された378組の5世代家族を対象に行ったアンケートで、回答を寄せられた251組（回収率67.3%）の調査結果です。1世代目の方々は1890年代に誕生された方も多く、実に1世紀以上にわたる時を過ごされてきました。この間の、日本の変化は目覚しく、ときには歴史に翻弄されながらも、子供を育て玄孫にいたるまで、家族の新しい命の誕生を見守ってこられました。日本は欧米先進国と比較して、近年急激に高齢化が進んでいるといわれています。少子高齢化の現代において、長寿や健康、円滑な世代間コミュニケーションは、多くの人々にとって大きな関心事となっています。この調査結果に見られる「5世代家族」は日本の理想的な家族の象徴、ロールモデルとも言えるのではないかと思います。

### 5世代家族の定義：

ここでは、血縁関係で結ばれている家族で、一番上の世代から数えると、親、子、孫、曾孫（ひまご）、そして玄孫（やしやご）の5世代を指し、一番若い世代から数えると、子、父母、祖父母、曾祖父母（そうそふぼ）、曾曾祖父母（そうそうそふぼ）の5世代を指します。

以下にこのアンケート調査結果の概略についてまとめてあります。詳細は添付の「5世代家族の生活意識と実態」調査報告書をご覧ください。なお、各項目のページは、調査報告書に掲載されているページを示しています。

## 「5世代家族の生活意識と実態」調査 概要

### 5世代家族の生活・コミュニケーション

- 5世代が顔を合わせやすい環境で暮らす p.8-15

5世代家族は、5世代が顔を合わせやすい環境（5世代同居、同じ市町村、同じ都道府県）で2/3が暮らしており、農・魚・林業地区に住んでいる人は5世代同居が多く、住宅地に住んでいる人では3世帯～4世帯に分かれて暮らしている家族が多く見受けられました。また、5世代が同居していなくても、お正月やお盆など4組に1組は定期的集まる機会を持っています。

- ひんぱんな会話 P.16

全員同居以外の家族でも、第1世代と第4～5世代とのコミュニケーションの機会として、半数は「年2～3回以上」会話をしており、第2世代と第4～5世代間ではコミュニケーションはもっと密で、「月1回は会話をしている」家族が6割～7割を占めています。

- 「第5世代の成長」が話題の中心 P.17

家族が顔を会わせたときによく話す話題としては、「第5世代の成長」が断然トップとなっています。一番若い第5世代の成長は、1世代、2世代のお年寄りにとっても、喜びや生きがいにつながっており、曾孫や玄孫と接することが刺激にもなっていると思われます。

- 活発な地域とのかかわりあい P.19

各世代とも熱心な地域活動への参加が、5世代家族の特徴です。何らかの地域活動に参加している割合をみると、第1世代43.0%、第2世代72.5%、第3世代74.5%、第4世代59.8%で、特に第2～3世代の活発さが目につきます。具体的には、第1世代は、「老人会（デイケアセンターも含む）」がほとんどで、第2世代は、「老人会」「町内会」「趣味のサークル」が中心となり、第3世代は、「町内会」「趣味のサークル」「スポーツ」などが多いものの、「自治会」「PTA活動」「ボランティア活動」など最もバラエティに富んでおり、第4世代は、「スポーツ」に参加が一番高く、次いで「PTA活動」「町内会」となっています。

### 5世代家族の食生活と健康

- 好まれる和食 P.21

各世代が共通してよく食べるのが、「ご飯」「魚介類」「野菜」「果物」で、「甘い物」「香辛料」については控えめとなっています。上の世代では「大豆製品・豆類」「いも類」「味噌汁」「海藻類」を好む傾向が強く、反対に下の世代では「パ

ン」「めん類」「肉類」「乳製品」を好んでいます。そして上の世代ほど「甘いもの」を、下の世代ほど「香辛料」を好んでいます。

- 第1世代は魚が大好き P.22

第1世代の好物は、刺身をはじめとする「魚料理」がトップで、次に「梅干し」、続いて「牛乳」「果物」「お茶・コーヒー」が上位に上げられています。第1世代の男性の半数近く、女性の2割がお酒をたしなんでいます。また、第1世代の男性の半数、女性の2割はお酒をたしなんでいます。

- 第1世代は頭と胃腸が丈夫 P.30

頭の働きがしっかりしている第1世代が多く、年齢のわりに元気なところは、「会話」61.4%がトップ。お互いに言葉を交わすことが、世代間コミュニケーションや、お年よりの健康に大きく影響していることが上げられます。

続いて「胃腸」53.4%、「目」47.8%、「記憶力」44.6%、「心臓」38.6%、「耳」33.9%、「肺」31.9%、「足」28.3%、「歯」21.1%、となっています。頭の働きがしっかりしており、生活の柱である食事が良好にとれていることが特徴です。

- 5世代家族は運動好き P.25,29

第2世代～4世代の6割は体を動かしています。また、第1世代の半数が歩いて外出をしており、100歳以上の第1世代に限っても半数以上の方が自分で歩いています。第1世代では、「散歩」以外には「畑仕事・農作業」「歩く」「体操」が上げられていますが、日常生活も高齢者にとっては運動となるようで、「入浴」「家事」「買い物」を上げている人がいました。

- 身近なかかりつけ医の存在 P.28

第1世代の89.6%、第2世代の83.3%、第3世代の54.2%、第4世代の41.8%、第5世代の77.3%と5世代家族にとって、身近なかかりつけ医の存在が上げられます。特に、高齢者の大半に、かかりつけ医がいます。

### 5世代家族についてどのように感じているか

- 「喜びだ」「自慢に思う」 P.47

5世代家族の一員としての感想としては「喜びだ」(73.7%)、次いで「自慢に思う」(69.3%)という2項目が、ダントツに多く上げられ、さらに「家族から助言をもらったり、気にかけてもらえて嬉しい」「家族の協力があって5世代家族が成り立つ」「5世代家族であることは楽しい」「5世代家族であることは心強い」と、いずれも肯定的な意見が上位を占めています。一方、「悩みが多い」「思うように行動できない」「意見がまとまらない」というデメリットを感じている人は少数派にとどまっています。

- 5世代同居家族は「一緒に暮らすのがよい」と感じている P.47

5世代同居家族では、先にあげたようなデメリットを感じることもあるものの、それを上回るメリットを感じており、「一緒に暮らすのがよい」という意見が強い。また「5世代家族であることは特に気にならない」(23.5%)「5世代家族であることは特別なものではない」(13.5%)というように、5世代家族であることをごく自然のことと受け止めている人もいます。

- 5世代家族を表現する漢字/熟語：「和・健康・幸福」が上位

p.48-49

第1位は「和/輪」(11.2%)で男性/女性のいずれにおいても最も回答が多い。第2位は「健康/健康第一」(8.4%)、第3位は「幸福」(6.4%)、次いで「喜/感激」(4.8%)「絆」(4.4%)「長寿/長寿家族/長生」「宝」「愛/愛情」(3.6%)といったものが上位にあげられています。

一方、5世代全員同居家族の場合は、第1位の「和/輪」をあげる人は少なく(4.9%)、逆に「幸福」(12.2%)、「強/固」(9.8%)といった漢字をあげる人が多いのが目につきます。一方、4世帯に分かれて住んでいる家族の場合は、「和/輪」をあげる人が多く(23.7%)、離れて暮らしているだけにつながりをより意識しているようです。

このほか「架け橋」「きらめき」「奇跡」「繁栄」や「忍耐」「我慢」「難」などの言葉もあげられています。4文字熟語では「一生懸命」「喜怒哀楽」「社会縮図」などの言葉があげられています。

- 世代に伝わる生活習慣：「生きることの知恵・工夫・厳しさ」P.50

上の世代から「受け継いだもの」の、トップは男女とも「生活習慣」でした。男性では「財産/家」「仕事」が続きますが、それを除くと、男女とも「家族や人との接し方」「思いやり/いたわり」「家族を大切にする/家族/家族の絆」など人づきあいのコツをあげる人が多く、なお「財産/家」「仕事」は年齢が高い人や「農/漁/林業地区居住者」、また「全員同居家族」であげる人が多く見受けられました。

#### 5世代家族/多世代家族のメリット

- 大勢の家族がいることで分担協力ができる P.32

「忙しいときに分担が出来る」(58.2%)、「世話(第1世代)をするときの相談が出来る」(50.2%)といった世話をするときの分担がまずあげられています。第5世代の育児への協力については、第3世代にあたる祖母/祖父が協力する割合が高く、特に祖母に関しては(82.5%)と非常に高くなっています。さらに第2世代にあたる曾祖母も3組に1組(35.1%)が協力しています。子育てについては、「助けてもらえる」が8割の回答、「アドバイスが得られる」が5割の高回答になっています。

## 第1世代に学ぶ長生きのひけつ

### ● まず「身の回りのことは自分です」気力を持つ P.39

「身の回りのことは自分です・しようとする」(64.9%)という生活態度で、まず“人任せにしない”という気力を持つことが大切とみています。次いで、「規則正しい生活」(44.6%)、「自然体で過ごす」(39.4%)、「早寝早起き」(33.9%)といったことをあげる人が多く見受けられます。

健康面での留意点では、「食べ物の好き嫌いを言わない」(53.8%)といった食生活のほか、「手先を動かす」(48.2%)、「体を動かすよう心がけている」(39.0%)といった運動の必要性があげられています。

このほか、「子や孫が頻繁に顔を見せる」(37.1%)、「新聞やニュースを見る」(36.7%)、「家族と一緒に食事をする」(31.5%)、「家族や友人と話す機会を多く持つ」(29.9%)といったコミュニケーションについても重要視しています。

第1世代・第2世代の好む歌	P.35
” 好む小説	P.36
” 好む俳優・女優	P.36
” 好む番組	P.37

第1世代の呼ばれ方	P.18
「大きいばあちゃん・大きいばあ・大きいおばあ」	
「ひーひーばあちゃん・ひーひーばーば」	
「じじ・ジージ」	
「隠居じいちゃん」	

キーワードは、気力・食生活・運動・家族とのコミュニケーション・好奇心（新聞やニュースを見る）です。

\*なお、本アンケート調査結果の一部抜粋は、9月10日に中央公論新社から発売された「にっぽん 五世代家族」の本（企画：ノバルティスファーマ）にも掲載されています。

以上